



広島オーストリア協会

# 会報 No.31

平成20年4月30日発行  
編集・発行／広島オーストリア協会

〒730-8552 広島市中区白島北町19番2号  
広島ホームテレビ 秘書室  
TEL(082)221-4964 FAX(082)221-4731



広島オーストリア協会 会長  
在広島オーストリア名譽領事  
橋本宗利

会員の皆様には日頃広島オーストリア協会の活動にご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の広島オーストリア協会では、6月に総会、9月にはオーストリア親善訪問の旅、12月にはクリスマス例会とクラシックコンサート、3月に講演会と、台風のためやむを得ず中止となったビアホールの会を除き、概ね当初計画通りの事業活動を行いました。

特に21名の大訪問団となったオーストリア親善訪問の旅は、ベルリン、ワルシャワなど近隣諸国の都市も訪問したほかウィーンではオーストリア日本大使公邸でのカクテルパーティーや塊日協会（ウィーン）との懇親パーティなどが催され、楽器の演奏あり、合唱ありと大いに盛り上がり、さらに友好を深めることができました。

12月のクリスマス例会にはユッタ・シュテファン＝バストル駐日オーストリア大使ご夫妻も出席され、華やかな会となりました。同じく12月のクラシックコンサートでは「ブラシモ・ウィーン金管五重奏団」のメンバーがクリスマスにちなんだ曲を織り交ぜながら、名曲の数々を披露し、好評を博しました。

協会では、今年も皆様のご期待に沿うよう活動の充実に努めてまいります。会員の皆様の積極的な行事への参加をお願い申し上げます。



## 総会



■日 時 平成19年6月8日(金)18:00~20:00  
 ■場 所 広島全日空ホテル3階オーキッド  
 ■出席者 111名

広島オーストリア協会の通常総会が広島全日空ホテルで行われました。今年で19回目となる総会には111名が出席しました。会でははじめに当協会の橋本会長が「平成18年度は、オーストリアウィークなどのイベントにより広島の人たちにオーストリアの国をより知っていただく機会ができた。今年もより素敵なイベントがあるので奮って参加して頂きたい。」と挨拶しました。

続いて行われた懇親会では、駐日オーストリア大使館のクリストフ・ヴァイリンガー臨時代理大使のコメントが披露された後、乾杯では池上副会長が「皆さんもこの機会に、オーストリアの音楽・芸術に触れ親睦を深めてください。」と挨拶しました。

また会では、ハープ奏者の松浦洋子さんが「中国地方子守唄」など4曲をなめらかな美しい旋律で奏きました。会場にはオーストリア風の料理や紅白のワインが並べられ、会員の皆様は、つかの間のオーストリア気分を味わっていました。

## 平成19年度事業報告

平成19年度理事会・総会・懇親会	6月8日(金)	広島全日空ホテル	(参加者:111名)
オーストリア親善訪問の旅	9月5日(水) ~ 12日(水)		(参加者:21名)
クリスマス例会	12月7日(金)	ホテルグランピア広島	(参加者:149名)
ブラシモ・ウィーン金管五重奏団	12月9日(日)	広島国際会議場	(参加者:881名)
講演会・懇親会	3月27日(木)	広島ホームテレビ	(参加者:83名)

## 平成20年度活動予定

6月9日(月)	平成20年度理事会・総会・懇親会
7~8月	ビアホールの会
9月20日(土)	ベンヤミン・シュミット・プロジェクト from ウィーン(広島ALSOKホール)
12月	クリスマス例会
3月	講演会・懇親会
年1回	会報発行

## 平成19年度役員(平成19年6月8日現在)

役 員	氏 名	現 職
会 長	橋 本 宗 利	(株)広島ホームテレビ社長
副 会 長	池 上 徹	マツダ(株)業務管理本部長
"	不 破 亨	湧永製薬(株)副会長
"	光 井 安 子	エリザベト音楽大学非常勤講師
専 務 理 事	松 原 一 彦	(株)広島ホームテレビ総務局長
理 事	安 倍 寛 信	三菱商事(株)中国支社執行役員支社長
"	ゲオルグ・ペスティンガー	駐日オーストリア大使館一等書記官
"	安 東 善 博	(株)中国放送社長
"	川 口 英 二	(株)テレビ新広島取締役
"	紙 元 秀 樹	(財)ひろしま国際センター専務理事
"	熊 平 雅 人	(株)熊平製作所社長
"	後 藤 文 生	広島テレビ放送(株)社長
"	スティーブン・ロイドリーパー	(財)広島平和文化センター理事長
"	菅 田 泰 介	福山商工会議所会頭
"	杉 原 茗	広島エフエム放送(株)社長
"	福 嶋 正 純	広島大学名誉教授
"	木 下 享 介	(株)広島ホームテレビ専務
"	望 月 成 二	エビス電工(株)社長
"	野 坂 文 雄	(株)もみじ銀行頭取
"	山 本 一 隆	(株)中国新聞社副社長
監 事	志 水 省 夫	(株)新日放社長
"	荒 川 昌 治	中国電力(株)常務

## 活動報告

## クリスマス例会



■日 時 平成19年12月7日(金)  
 ■場 所 ホテルグランピア広島  
 ■出席者 149名

今回の広島オーストリア協会クリスマス例会は、ユッタ・シュテファン=バストル駐日オーストリア大使ご夫妻が出席され華やかな会となりました。会でははじめに当協会の橋本会長が「9月に行ったオーストリア親善訪問の旅では壇日協会(ウィーン)との懇親パーティが催されるなど、さらに友好を深めることができた。」と挨拶しました。

続いてユッタ・シュテファン=バストル駐日大使が「2009年は日本とオーストリアの国交140周年を記念した交流年。交流年に向けて様々なイベントを計画しているので、楽しみにして下さい。」と挨拶されました。

そして三木貴徳さん、三木奈理枝さんご夫妻と安田晃子さんが声楽とピアノ演奏でクリスマスにちなんだ曲などを披露されました。

## ユーモア溢れる楽しい解説と共に世界中を演奏旅行! Brassissimo Vienna

■日 時 平成19年12月9日(日)14時開演  
 ■場 所 広島国際会議場フェニックスホール  
 ■演奏曲目 G・ロッシーニ:歌劇「ウイリアム・テル」序曲  
 J. S. バッハ:イタリア協奏曲より第一楽章  
 W. A. モーツアルト:トルコ行進曲  
 クレツツ編曲:愛するイタリア  
 イタリア奇想曲/フニクリ・フニクラ  
 歌劇「リゴレット」より“女心の歌”  
 歌劇「椿姫」より“乾杯の歌”  
 J. シュトラウスⅡ:ポルガ“クラップフェンの森にて”  
 V. モンティ:チャールダッシュ  
 J. J. ムレ:ロンド  
 A. ハチャトゥリヤン:剣の舞 他

オーストリアの金管五重奏団「ブラシモ・ウィーン」のコンサートがクリスマス気分で盛り上がる広島市内のフェニックスホールで開かれ、約1000人のお客様が名演奏を楽しみました。

ブラシモ・ウィーンは2本のトランペットとウィーンF-ホルン、トロンボーン、チューバからなる金管五重奏団で1989年の結成以来、日本での公演も数多く今回は5年ぶりの来日です。メンバー構成は初期からのメンバー2人を含む3人がオーストリア人、あとはハンガリーとイギリス人で年齢も20代から40代までの若手と中堅の混成メンバー。彼等は1年のうち半分は世界中を演奏しながら飛び回っているといいます。開演後、まず驚いたのがチューバの存在感でした。オーケストラでは比較的目立たない存在ですが、ここでは主旋律をチューバが担当するな

最後に恒例のお楽しみ抽選会が行われました。法人会員様のご協力で参加者の5名に1人、賞品が当たる豪華なものとなりました。

今年のクリスマス例会には会員やそのご家族、友人など149名が出席され、協会のアットホームな雰囲気を楽しめました。



ど何しろ吹きまくります。チューバの彼が舞台袖に戻る度に大粒の汗を床に落として行くほどです。得意の低音はもちろんのこと、高音から早吹きまで変幻自在な演奏ぶり。今回、プロモーターさんからのケータリングの希望は「とにかく水を沢山用意して欲しい」という点だけ。それがすぐに納得出来る程、開演直後から体力勝負の舞台でした。コンサートはまず、歌劇「ウイリアム・テル」序曲の軽快な旋律で幕が開き、続いてバッハの「イタリア協奏曲第一楽章」、モーツアルトの「トルコ行進曲」など躍動感あふれるアンサンブルが続き、客席からは自然に手拍子が鳴ります。後半にはサンタクロースの帽子をかぶってクリスマス音楽のメドレーも披露する演出もあり、お客様はアンコールを含めた20曲あまりに酔いしれた2時間でした。

さて2008年にオーストリア協会がお届けする公演はクライスターの再来!との呼び声高いザルツブルク音楽祭の主役、ベンヤミン・シュミットが登場。ジャンルを超えたメンバーによる豪華な共演をお聞き逃し無く。

HOME事業部 佐藤直美



## オーストリア旅行記

### オーストリア親善訪問旅行

(株)中電工 顧問 関田 正興

今回の旅行は何と言っても、雨、風、そして低温（広島との温度差 20 度前後）。現地のガイドさんがいきなりダウンジャケットに襟巻で現われびっくり。団のメンバーに強力な雨男（雨女）がおられるでは、と密かに内偵が進められ、凡そ目星がついたとの噂もあったが、確証もなく、帰国の途に着く最終日のフラシクフルトで、漸く傘の心配が要らなくなったという次第。

ベルリンで聞いた話では 8 月 1 ヶ月間で晴天だったのは 2~3 日とのこと。雨男は当然冗談で、地球規模での異常気象を実体験でき、酷暑の続く広島を思いやりながら、負け惜しみでなく、良い思い出になったと、突風で骨の折れた傘の中で思ったものである。

今回の旅程は 9 月 5 日早朝、関西空港を出発。機内で、その国の文化の程度とアテンダントのレベルは逆相関関係にあるとの説をメンバーの方からお聞きしながら、ウィーンに向かった。ウィーン 3 泊、ベルリン 1 泊、ワルシャワ 2 泊の日程で、盛り沢山の観光、行事を満喫した。

今回のハイライトは、やはり在オーストリア日本大使公邸でのカクテルパーティと、その後の現地奥日協会メンバーとの交歓会である。

梅津オーストリア大使はたまたまローマ法王来奥の関係でご不在であったが、大使夫人が広島出身でもあり、大使館あげての大歓迎を戴いた。日本側メンバーによるピアノ、フルートの演奏があり、また殆ど森と言って良いほどの広大な庭園をグラス片手に散策させてもらった。引き続き場所を移して、奥日協会メンバーとの交歓会である。昨年就任されたバストル駐日オーストリア大使がたまたま帰国中であり、ご夫妻で出席戴いたほか、モーザ前大使など我々にも馴染みの方も参加戴き、大いに盛り上がった。当方スーパーバイザーの想いがけないオカリナ演奏の隠し芸を皮



関田さん（左から 2 人目）

切りに、双方から互いに馴染みのある歌の合唱を出し合い、大歌合戦となった。騒ぎの中で、先方メンバーに広島以外に日本の都市と親しくしておられるか聞いたところ、仙台、大阪などいくつかあるが、格別広島に親近感を持っており、公式に友好親善の協定を結んでいるのは広島のみであると聞き、鼻が高かった。広島オーストリア協会の日頃の精力的な活動、ご努力の成果であると感じ入った。

私にとって今回の目玉は、初体験のベルリン、ワルシャワである。「ベルリンの壁」をはじめ第 2 次大戦、冷戦が極く身近に感じられる傷跡も見聞した。経済的な立ち直りも遅れがちのようであるが、逆にその分これから発展の可能性を、特にワルシャワで感じた。

それにしてもヨーロッパに来ていつも感じるのは、少し郊外に出ると送電線とか広告の看板を全く見ないことである。産業活動が不活発と言ってしまえばそれまでだが、経済より自然とか人間が主役の感が強い。ウィーンからグラーツ（オーストリア南西部、アーノルド・シュワルツネッガーの故郷）に列車での旅行をしたが、車両編成が豊富で、普通車両の一等車、二等車に加え、コンパートメント、食堂車、マウンテンバイク専用車など旅を多様に楽しむように出来ている。途中でよく止まり、決して急がない。ウィーンで地下鉄に乗ったが、改札は無人で簡単なパンチの機械があるのみ、事実上乗り降り自由。当然ドアの開閉は人間の手で行う。ベルリンでは車道と歩道の間に自転車専用道があり、歩行者もここを侵してはならない。

最近広島一東京間のぞみは新鋭車両の投入で 5 分間短縮されたらしいが、5 分の限界的な効用はどうほどのものか。それよりも普通車の 5 人掛けを 4 人掛けにしてもらった方がよほどうれしい。食堂車はとっくに無くなった。人間は物ではない。

日本は世界 2 番目の経済大国だが、ボツボツ経済性、効率性オンリーから人間尊重の余裕を持ってもよい段階か。平凡ではあるが、スローライフ（こういう言葉が本当にあるのかどうか知らないが）への目覚めが今回旅行の感想で



## オーストリア旅行記

ある。

今回も老若男女、皆さん和気藹々で本当に楽しいひとときを過ごさせて戴いた。橋本團長をはじめ、事務局の皆さんの細かいご配慮、演出には心から感謝したい。有難うございました。

### オーストリア親善訪問の旅

大橋 香織

音楽の都「ウィーン」で演奏しませんかと広島オーストリア協会の田中さんのお誘いで親善訪問の旅にエントリーするとともに、広島オーストリア協会の会員にさせていただきました。

早速、ベルギーのブリュッセルとチェコのプラハに留学中のエリザベト音楽大学出身の同窓 2 人の友人に誘いかけ 3 人の演奏を計画しました。

演奏はウィーンの日本大使公邸でウィーンの奥日協会や広島オーストリア協会そして日本大使館スタッフの皆さん前で行なわれるということで非常にワクワクした気持ちで計画を推進しました。

しかし、残念ながらプラハの友人（バイオリン）は急病で帰国した為、ブリュッセルの伊藤真理子さん（ピアノ）と私の二重奏となりました。

希望に胸を膨らませて 9 月 5 日の朝、親善訪問団の皆さんと共にルフトハンザ航空で関西空港を飛び立ちました。

私にとって命の次に大切なフルートを常に肩から掛けて持ち歩きましたので最初の寄港地フランクフルト空港では

ドイツ入国手続きの後、ウィーン行きへの乗り継ぎでは金属探知機の検査では非常に気を使いましたが、案ずるより生むが易しで無事通過できました。

日本から約 15 時間の空旅の後ウィーン空港に到着しました。空港では出迎えの現地のガイド兼コーディネーターで広島出身のイップ常子さんと伊藤さんとともに大雨の中をバスで宿泊先のイン



大橋さん（フルート演奏）



ターコンチネンタルホテルへ向かいました。

チェックインの後、強風と大雨の中をホテル近くのレストランに移動して、食事と結団式が行なわれ橋本会長のあいさつを皮切りに参加者全員の自己紹介でスタートしましたが、緊張の連続でしたが、やっとウィーンに来たなと実感しました。

翌日、皆さんは列車でグラーツ観光に行かれましたが、私は大切な演奏のためにリハーサルに集中しました。

伊藤さんとは約二年振りの演奏なので、音合わせのリハーサルがどうしても必要なのでピアノのある場所を探していました。幸運にもイップさんのお宅にグランドピアノがあり、私たちのために自宅を開放して下さいました。

初めてのウィーンでの演奏を前に私も伊藤さんも大変緊張していましたが、イップさんがお昼ご飯にチラシ寿しを作って下さるなどリラックスして練習できました。

その昔、貴族の別荘だったとか大変立派な大使公邸で広島出身の梅津大使夫人を始め、モーザ前駐日オーストリア大使や奥日協会メンバーそれに広島オーストリア協会親善訪問団の皆さん約 70 名の前で演奏しウィーンの初デビュー（？）をさせていただきました。2 人共大変緊張しましたが素晴らしい雰囲気の中で何とか演奏を終えることができ大きな感激でした。

また今回の旅行の最後でポーランドのワルシャワを訪れるショパンの生家も訪問することができ素晴らしい思い出となりました。



## メッセージ

### 広島日壇協会 会報メッセージ



ユッタ・シュテファン・バストル  
駐日オーストリア大使

広島日壇協会の会報に寄稿することにより、私は皆様に新任駐日オーストリア大使として自己紹介できることを大変嬉しく思います。外交官である私は 1985 年より 1990 年までの 5 年間は北京、今年までの 4 年間はインドのニューデリーとこれまでの職歴の大変重要な数年間をアジアで過ごすことができました。従って日本、その国民と素晴らしい文化を知ることは長い間、夫と私の願いでした。1990 年に、当時はまだとても小さかった息子レオポルドを連れて、私たち夫婦は東京、京都、奈良を数日間観光で訪れる機会がありました。日本建築の壮大な厳肅さ、閑静な庭園、世界的に知られる日本人の礼儀正しさおよびもてなしの心に大変感銘を受けました。今後このような素晴らしい経験を重ねることにより、我々の知識を広げ、日本の文化への理解を深化できることが楽しみです。

明治改元の翌年 1869 年に始まったオーストリアと日本の国交は 140 年の歴史を迎えようとしています。当時、オーストリアと日本の両皇室間で、相互の深い尊敬のしるしとして高価な贈物が交換されました。1873 年のウィーン万国博覧会は日本政府にとって日本のことあまり知らないヨーロッパの観衆に日本の国威、多彩な文化を紹介する絶好のチャンスとなりました。日本の芸術、とりわけ日本美術や版画、織物などは即座に大変な反響を呼び、多くのウィーンの芸術家の作品にも大きな影響を与えました。ウィーン分離派の代表的な画家グスタフ・クリムトが署名ですが単にその内の一人に過ぎません。第一・第二世界大戦の期間中には両国の関係が途切れましたが、1955 年に再開されました。

ヴォルフガング・シュッセル、前オーストリア首相および小泉純一郎、前日本総理大臣が 2006 年 4 月に 2009 年をオーストリア・日本交流年とし、国交樹立 140 周年を祝うことを決めました。この交流年は我々にとってオーストリアの音楽や芸術を紹介し、ヨーロッパの中心部に位置

する多くの実績を誇る斬新な産業国オーストリアが欧州連合加盟国として巨大な市場への玄関口であるという事実を広く認識して頂く良い機会となるでしょう。

日本に来て、オーストリアが日本と密接な交流のネットワークを持っていることを知り大変嬉しく思います。オーストリア、とりわけウィーンは、世界的に古典音楽の殿堂として認められており、しかし、これほど多数のオーストリアの管弦楽団や音楽家が日本で活躍していることと、オーストリアで音楽を学んでいる方々の数に随分驚かされました。2007 年夏以降には短期間ではありましたがあ、北海道、大阪、広島を訪問し、それぞれのオーストリア協会の会員の皆様から大変な歓迎を受けました。こうした多方面における交流は大変重要であり、守っていかなければなりません。

両国の関係のために非常に大切である公式な訪問交流は勿論のこと、今後さらに経済や学術交流を格別に推進していくことが私の役目だと思っております。両国間の通商関係が堅実であり、近年改めて増大の傾向を見せております。私は大使館商務部の責任者と共にその基盤を広げ、ハイテク分野にまで拡大して行きたいと思います。近代国家間の関係において「学術協力」が重要なキーワードであり、日本もオーストリアもこの点につき多くの可能性を秘めています。言葉はもはや壁壁とならないと考えられます。日本の観光客がオーストリアを訪問され、オーストリア人が日本を訪れることが相互理解と尊重を深めるために極めて大事な交流です。

オーストリアは観光の面においても（日本の観光客を誘致したい）ヨーロッパ内外の多くの国々と激しい競争を強いられています。2009 年には「オーストリアによこそ」と言うメッセージを皆様に聞こえるように発信したいと思います。

仕事の課題が実に幅広く、リレーのバトンが大使から大使へと引き継がれていきます。私は前任者のペーター・モーザー大使が始めた仕事に全力で取り組みたいと思います。いずれ私も同様に仕事を次の大使に託さなければなりません。それまでの間、私は喜びと熱意をもってこの素晴らしい任務に従事したいと思います。広島オーストリア協会会員の皆様の温かいご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 活動報告

### 講演会

■日 時 平成20年3月27日(木)18:00 ~  
■場 所 広島ホームテレビ多目的ホール  
■参加者 83名

オーストリアゆかりの方をお招きするこの講演会は、オーストリアの国と人への理解を深める場として広島オーストリア協会でも人気の行事です。今回は、広島平和文化センターボランティアスタッフのチェザル・コンスタンティネスクさんをお招きし、「広島でオーストリアと日本をつなげる」という題で講演していただきました。

#### (講演要旨)

「わたしはルーマニアで生まれて 5 歳の時にオーストリアに移住しました。ウィーン大学で日本学を勉強し、去年卒業して海外奉仕活動として広島にやってきました。オーストリアでは 18 歳から 35 歳の間に 6 ヶ月の兵役基本訓練の義務がありますが、そのかわりに福祉活動か海外奉仕活動を選ぶことができるからです。



平和記念資料館では、資料の翻訳や英語、ドイツ語での案内をしています。オーストリアでも第 2 次大戦やホロコーストがありました。歴史に対する意識が高まったのは広島に来てからで、オーストリアの戦争被害者とともに考えるようになりました。広島で何があったのかを伝えることのほかに、広島が平和のためにどんな努力をしているの

かもわかるようになりました。

この春ウィーンの日本文化センターで広島・長崎写真展が開催されています。ウィーン大学の日本学科の先生が講演したり、「はだしのゲン」の映画上映もあります。去年私がウィーン大学に提案した活動の一つがこの写真展です。要請があれば資料館は写真などを送ることができます。しかし、そういうチャンスがあることを知っている団体は少ないのです。

広島にオーストリア人がいることで広島のことをオーストリアに知ってもらうことができます。これからも広島のことを知つてもらうように私も努力したいと思います。逆に自分が広島にきて新聞の取材を受けたり、講演などを通じて、オーストリアのことも日本に知つてもらうことができます。広島に来る海外奉仕者は、日本とオーストリアの架け橋になることができると思います」



## お知らせ

### オーストリア映画上映中

アカデミー賞外国語映画部門賞を受賞したオーストリア映画「ヒトラーの贋札」が 5 月 23 日までサロンシネマ 2 で公開中です。

【お問い合わせ】 サロンシネマ 2 TEL 082-241-1781



(C)Aichholzer Film & magnolia Filmproduktion Alle Rechte vorbehalten

### オーストリア料理を味わう

リーガロイヤルホテル広島 6 階「ビュッフェレストラン セレーノ」では 5 月 11 日（日）まで代表的なオーストリア料理や本格的なオーストリアのスイーツを味わえる

「ドイツ・オーストリア・スイス 美食のロマンティック街道」を開催中です。この機会に本場の味を味わってみてはいかがですか。



【お問い合わせ】  
ビュッフェレストラン  
セレーノ  
TEL 082-228-6772

# Benjamin Schmid Project from Wien

ベンヤミン・シュミット プロジェクト from ウィーン

2008年9月20日(土)15時開演 広島ALSOKホール

今やヨーロッパのクラシック界で彼の存在を知らない者はいないと言われるベンヤミン・シュミットの広島公演決定!

2007年6月には3度にわたりウィーン・フィルと定期ソリストとして共演し、ザルツブルク音楽祭では小澤征爾が指揮するウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とコルンゴルドの協奏曲を熱演したベンヤミン・シュミット。そして今年は新たに始動させたジャズ・プロジェクトが日本に初上陸する。

リサイタル前半はクライスターの再来と称されるそのスマートで且つ音楽的なクラシックステージ。後半は超絶&高速ベースラインを奏でるギタリスト‘ビレリ・ラグーン’とウィーン・フィルのコントラバス奏者として活躍した後ジャズ・ベース奏者に転向した‘ゲオルク・ブレインシュミット’と共に演のジャズステージをお届けします。スタイルッシュでクールなステージをお聞き逃し無く。ご期待ください。

S席 6,500円(オーストリア協会会員価格 5,500円)

A席 4,500円(オーストリア協会会員価格 3,500円)

B席 3,500円

**Violin / Benjamin Schmid**  
ベンヤミン・シュミット

**Guitar / Biréli Lagréne**  
ビレリ・ラグレーン

**Bass / Georg Breinschmid**  
ゲオルグ・ブレインシュミット

※6歳未満のお子さまの入場はご遠慮ください。

## 投稿をお待ちしています

- ①オーストリアの旅の思い出・生活・習慣・芸術のこと・オーストリアの友人の話その他何でも結構です。  
会員の皆さまからの寄稿を募集します。お名前とご連絡先を明記して協会事務局へお送り下さい。  
原稿用紙400字詰3枚以内、関連する写真（あなたが一緒に写っていればなお結構）を1~2枚付けて下さい。ただし事務局で手直しさせていただきます。（ご投稿の写真は後日お返しいたします）  
②会員が主催するコンサートなど催し物の情報、会員の動向・消息・会報への提言・協会への希望も、できれば①と同様、お名前などご記入のうえお送り下さい。なお会報への提言（400字程度）・協会への希望は住所のみ、無記名でも結構です。  
①、②どちらも原稿の返却はいたしませんので了承下さい。



## 演奏曲目（予定）

バッハ：「無伴奏ソナタ 第1番ト短調」

パガニーニ：「6つのカプリス」

イザイ：「無伴奏ヴァイオリンソナタ 二短調 バラード」

クライスター：「愛の喜び」「愛の悲しみ」「美しきロスマリン」ほか

ジャンゴ・ラインハルト&ステファン・グラッペリ：

「マイナー・スwing」「ヌアージ」ほか

## 編集後記

昨年11月から人事異動のため担当が楠から三井に代わりました。

オーストリアといえばウインタースポーツの宝庫。国内には8,000を超えるスキーリゾートがあり、なかにはこれからベストシーズンを迎える氷河スキー場もあるそうです。アルプスの雄大なパノラマを想いうかべながら事務局の運営に励みます。（三井）